

## 教育講演 「薬剤師と管理栄養士・栄養士との連携

### ～薬剤師から見た管理栄養士・栄養士～

講師 一般社団法人 大阪府薬剤師会  
副会長 西川 直樹氏



#### はじめに

現在、日本の年齢人口比率は高齢化社会になっている。この傾向はますます進むことは間違いない。そのため社会保障費は年々増加の一途をたどっている。しかし人口は減少する。そこで最近、年金受給は70歳からでも可能というようなことになってきている。しかし、問題は年金だけではない。現在2.3人の若者が1人の老人の面倒を見ている状況である。それが1対1になる日もそう遠くない。また、65歳を超えると医療費が急激に高くなっている。つまり有病率が高い。医療費を減らすには病気にならないようにするのが一番手っ取り早い。なぜ病気になるのか、定年退職すると病気になりやすくなるのか。年齢を重ねるうちに体中のいたるところから悲鳴が上がってきているのかもしれない。横になったまま年齢を重ねるのでは面白くない。現在平均寿命は80歳を超えているが、健康寿命が80歳ではない。これを延ばすのは、食と医療であると思っている。

#### 高齢化社会に対応するために

2025年団塊の世代が75歳を迎える（全人口に占める割合が18%を超えることが予想される）時である。そこで厚生労働省は2025年（平成37年）を目途に、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を推進している。

#### 病院薬剤師の仕事

調剤業務・製剤業務・注射調剤業務・注射薬混合調整業務・外来化学療法室・救命救急業務・医療情報業務・治験業務・チーム医療・病棟薬剤業務・疑義照会とプレアポイド・薬剤師外来・専門薬剤師

最近では病棟、救命救急、ICU、NICUなど色々な所に薬剤師が常駐しており、専門薬剤師も活躍している。

薬剤師外来では、「妊娠と薬外来」「がん専門薬剤師外来」といったものがあり、1対1での相談も行っている。例えば、基本的に妊娠すれば薬は飲みたくないものであり、母乳には薬が移行する。また薬の添付文書には「妊婦・産婦・授乳婦等への投与には治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること」と注意記載がある。「妊娠と薬外来」では、

慢性疾患があり薬を飲んでいる人が妊娠した場合や授乳中の薬の飲み方などの相談を行っている。

チーム医療にはNST・緩和ケアチーム・感染管理チーム・褥瘡管理チームなどがある。NSTでは薬剤師は静脈経腸栄養の判断や処方箋の支援を行っている。チームではお互いが対等の立場で自分の職能を活かしながら患者を診ていくことが大切である。

#### 保険薬局薬剤師の仕事

処方箋監査・薬歴確認・調剤・服薬指導・薬剤交付

かかりつけ薬局（複数の病院にかかっても一つの薬局で薬をもらうことで、病院ごとの薬の相互作用や不必要な薬が発見できる）

在宅薬剤師

セルフメディケーションと薬局

#### 医薬品と医薬品に関する相互作用

##### ○グレープフルーツ（ジュース）

グレープフルーツ（ジュース）は消化管での薬物代謝（CYP3A4）あるいは消化管での排出（P糖タンパク質）を阻害する。そのためCYP3A4で代謝される薬物の代謝が遅れて血中で高濃度になる。

（例）カルシウム拮抗薬、シクロスポリン

\*グレープフルーツに含まれるフラノクマリンが影響するもので、グレープフルーツ以外にフラノクマリンを含んでいる柑橘類にはスウィーティー、ブンタン、ハッサク、夏みかん、ダイダイなどがある。

##### ○牛乳とくすり

・薬剤の成分が牛乳のカルシウムと結合してしまい薬の吸収や作用を低下させる。

（例）ミノマイシン、クラビット、ボナロン

\*薬剤服用後、2時間程度牛乳の摂取を避けることが望ましい。

・牛乳と一緒に服用すると薬剤の吸収が促進され、作用が増強する可能性がある薬品

（例）クアゼパム（睡眠鎮静薬）

##### ○拮抗作用

ワルファリンとビタミンK（ワルファリンの作用減弱）

ビタミンK含有食品：緑黄色野菜・藻類・納豆・味噌・クロレラなど

#### コメディカルに期待すること

チーム医療において相手の仕事を知ることが大事である。対物から対人へと言われている中で、管理栄養士の方々は知識を自分のものとしベッドサイドで力を発揮できるよう期待している。

（文責 病院）